

別記様式第7号

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業又は鳥獣被害防止対策促進支援事業並びにシカ特別対策等事業の評価報告(令和5年度報告)  
事業実施主体名

新庄村

1 被害防止計画の作成数、特徴等

令和2年度より3か年計画で策定し、令和4年度を目標に計画した。  
対象鳥獣は被害の多いイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルを対象に設定。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。

新庄村、真庭地区猟友会を中心に各関係機関で新庄村鳥獣被害防止対策協議会を設置している。被害は横ばい状況である。近年シカが増え、有害捕獲も年々増加傾向にあり、これに伴い被害も増大していると推測される。防護柵設置と有害捕獲により被害の増加を食い止めたと考えている。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。

令和元年度は、被害面積・金額ともに非常に少ない年だったため、目標値は現状と同じ値とした。  
令和5年度の被害額は目標値161千円に対して328千円、被害面積は目標値0.42haに対して0.34haとなっており、被害金額については目標を達成できなかった。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価			
										被害金額			被害面積								
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率						
新庄村	新庄村	5	イノシシ	緊急捕獲	90				捕獲数は増えたが、防止対策により面積は大きく減少しているが、被害額は微増している。	イノシシ	318			0.32	捕獲数は増加しているが、被害額及び面積は激減した。計画目標に対し被害額は少しばかり上回ったが面積は半分以下となっている。  毎年一定数の捕獲ができていたため、今後も捕獲を強化して被害の低減につなげていきたい。 また、捕獲と一体的に防護柵の整備等による防護対策の取組も検討していきたい。	被害金額・被害面積ともに昨年と比較して減少しており、被害面積については、目標を達成できた。あつたと考えられる。今後は、防護対策や生息環境管理の整備等も合わせて取り組んでいきたい。					
			ニホンザル		13				例年に比べ捕獲数は減少している。防止対策により被害は未然に防げている。	サル	0			0.00							
			ニホンジカ		20				捕獲数は増えているが、被害額は例年並みであった。	シカ	161	10	未達成	0.42				0.02	達成		
	5		イノシシ	シカ 特別対策																	
			ニホンザル																		
			ニホンジカ		16				捕獲数は増えているが、被害額は例年並みであった。												
			計		328				計	0.34											

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置

に  
各実施地区の「獣種管理状況」欄には、各実施地区ごとの「鳥獣被害防止対策」について、具体的な記載を要する。また、